さいたま市立東岩槻小学校 学校だより ２月号

すわっ子だより

学校教育目標　ともに伸びる子
かしこく　ゆたかに　たくましく
令和７年１月２９日（水）
第１２号　発行責任者　川添　倫義
在籍児童数１５４名
http:/higashiiwatsuki-e.saitama-city.ed.jp

復旧、復興

校長　川添　倫義

令和６年１月１日午後４時１０分ごろ石川県志賀町で震度７の地震があり、建物の倒壊や火災、津波等により、多くの命が奪われました。また、震災によるケガや病気など、甚大な被害が報告されています。長い年月をかけて築き上げた財産を失った方々の無念さはどれほどのものだったでしょうか。希望を失い、絶望感に襲われた方々も少なくなかったと思います。

最近「心の中では、未だにその時が止まったままである」という被災された方のお話を伺いました。改めてお見舞いを申し上げるとともに、一日も早い復旧、復興を心からお祈りいたします。

今回の地震で、１９９５年の阪神・淡路大地震の際に聞いたボランティアの方々の活動を思い出しました。被災された方々に復旧、復興への意欲と希望をもたらす、その献身的な姿勢は大変印象深いものでした。

・家を失い、小学校に避難した中学１年生の男子生徒の言葉です。

「同級生が一人亡くなった。僕は今、ボランティアの人に助けてもらっている。本当にありがたい。学校で『助け合い』とか『命を大切に』と言われても、ピンとこなかったけれど、今は違う。『生きていることはありがたい』と伝えたい。」

・学校に避難されていた年配の方の言葉です。

「横浜からきたマッサージの方に足をもんでもらいました。みんな『お水どうぞ』って優しいです。避難所の体育館をきれいに掃除してくれたり、洗濯をしてくれたりする若い人たちを見直しました。トイレに花を飾ってくれるという小さなところまで気遣いができることに感心します。」

多くのボランティアの方々が被災地を走り回り、避難生活を支え、温かい声をかける。その姿が被災されている方々の心にどれほどの意欲と勇気をもたらしたことでしょうか。

能登半島の地震でも、汗しながら自分の体と心を直接人々のために働かせたという事例をたくさんお聞きしています。

本校では、防災教育の一環として１月１５日に避難訓練を実施しました。“いざ”という時に行動できる力を日頃から培っていきたいと考えています。また、互いに助け合い、支え合う大切さを心に刻み、地域や社会の一員としてできることを考え、行動できるよう支援してまいります。